

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (北海道)	良く なっている やや良く なっている	観光名所（従業員）	来客数の動き	・26日現在の利用乗降客数が前年比114%となっており、今年度は毎月、前年比プラスが継続している。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・北海道の観光客は7月から増え始めている。特に海外客が大きく増加しており、直行便が就航したタイを始めとして、中国本土を除く東南アジアを中心に増えている。例年であれば、夏期本番のシーズンは、航空機代金、バス料金、宿泊費が繁忙期で高くなるため、海外客の入込が減る時期であるが、全く衰えがみられないことから、エグゼクティブな旅行であることがうかがえる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・今月は3連休が2回もあったことで、売上が伸びている。前々から感じていたが、連休を増やすこと、それだけで消費につながる面がある。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数が前年比100%であるのに対して、売上が前年比106%となっており、客単価上昇の動きがみられる。気温の低下が秋物の購買を後押ししており、定価品の売上が前年比107%で推移している。ジャケットやコートがメンズ、レディースともに伸びているなど、全商品カテゴリーで前年を上回っている。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・来客数が大幅に増加しているわけではないが、客単価が向上している。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・前月に引き続き来客数が前年を上回る基調で推移している。客単価も特殊要因を除けば、ほぼ前年並みを維持している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量が8月よりも5%程度減ったが、売上が前年比104%と久しぶりに前年を上回った。今月は生鮮部門を中心に一般食品や米などが好調だった。
		スーパー（店長）	単価の動き	・前年の猛暑と違い、平年並みの気温で推移したことから、秋冬物の衣料品を始めとした防寒関連商品の動きが非常に良い。また、ランドセルも前年の2倍の水準で売れているほか、高額品の動きも顕著である。暖房関連も大型石油暖房機を中心に、全体の単価を押し上げている。
		衣料品専門店（店員）	単価の動き	・9月に入ってから高額商品に動きがみられる。
		家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・4Kテレビ等の高付加価値商品の需要が増えており、デフレ感が弱くなってきている。また、残暑が長引いた前年と対照的に、今年は例年どおりの秋が訪れていることで、大型暖房機の需要がみられ始めている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・今月は3連休が2回続き、天候にも恵まれたことから、観光客の入込が良い。年配のグループ利用も多く、ランチの待ち時間が1時間半に及んだ日もみられた。売上は前年を10%上回った。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・3連休の宿泊予約を効率よく取り込むことができた。需要を喚起するイベントが開催されたこともあり、国内客の宿泊予約で計画を達成できた。外国人客の宿泊では台湾が堅調なほか、新興のタイは連泊が多く、好調に推移した。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・8月中旬から雨が多く、農作物への影響が心配されたが、作柄が良好であるほか、水産業もホタテ、さけの漁獲が良く、1次産業が安定しているため、人の動き、物流が活性化している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・9月のタクシー1台当たりの売上は前年より悪かった。乗務員が不足しており、募集してもなかなか乗務員が集まらないため、タクシーの稼働が悪くなっており、会社の総売上は前年を大きく下回っている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・特筆すべき要因が見当たらない状況であるが、売上が前年比でプラスとなっている。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株価と為替が安定していることから、順調に推移している。
		変わらない	商店街（代表者）	単価の動き
		商店街（代表者）	お客様の様子	・9月に入っても残暑が長く続いたため、秋物を求める客の出足が遅かった。その後、急に気温が下がったものの、客自身がまだ何を買ったら良いのか分からず、単価の低い商品にしか動きが出ていない。

商店街（代表者）	お客様の様子	・今の状況では消費税増税が確定的になりそうだが、客の反応をみると、仕方ないという雰囲気がある。
商店街（代表者）	来客数の動き	・中旬までは例年並みの来街者があったが、それ以降、周辺地域における大きな大会等もなく、中心部を訪れる買物客が減少した。また、秋の観光シーズンに入ったにもかかわらず、道内客、道外客、外国人客とも観光客の増加がみられない。3か月前と比べると悪い状態のまま変わらない。
百貨店（売場主任）	お客様の様子	・紳士物、婦人物で秋物の動きが出ている。なかでも、婦人物のパンツ、ブラウス、カットソー、ジャケットの売上は前年を10%上回っている。気温が下がったことにより、下旬に入ってから紳士物のジャケット、パンツにも動きが出てきている。
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・9月に入り、気温が一気に低下したため、衣料品を中心に秋冬物が売上を伸ばした。しかしながら、来客数の伸びに対して、客単価や買上客数は低下傾向であり、期待値には達していない状態である。
百貨店（役員）	販売量の動き	・前年は9月20日ごろまで30度を超える暑さが続き、秋物、冬物の出足が壊滅状態だったが、今年は8月後半から急激に気温が下がったため、秋物の動きがしっかりと表れている。ファッションは全般に状況が良く、前年の2けた増が見込める。스토브の動きも好調である。
スーパー（店長）	単価の動き	・世間で言われているように、単価の高い商品が特に売れているわけではない。
スーパー（役員）	単価の動き	・前年は残暑が厳しく、夏日が16日間あったのに対して、今年は夏日が4日間と気温が低く推移しているなか、売上は前年から0.5%伸びている。ただし、天候の影響か、来客数が前年から2%前後低下しており、客単価の上昇に助けられている面がある。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・9月は前年の残暑の反動で、来客数は前年を1割下回っている。しかし、前々年との比較では95%前後での推移であり、ここ3か月、来客数の動向は変化していない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は継続して前年割れとなっている。主要因は気温が前年を下回っているためであるが、1次産業の不振も客足の鈍化につながっている。世間で言われているほど、消費者の懐事情は回復していない。
衣料品専門店（店長）	それ以外	・店の売上やその他の面から判断して、状況は変わらない。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・今月は売上、利益とも前年を上回った。
乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・法人向けは若干の上向き傾向にあるが、個人向けは大きな変化はなく、全体として大きな変化は感じられない。
自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・来客数は前年と特に変わらない。景気が上向いているとは感じないが、逆に悪くなっているとも感じない。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・店内で、値段設定の高い物が売れない。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・今月は市内中心部で飲食の大型催事があったこともあり、週末のフリー客が奮わなかった。ランチの単価も上がってこなかったため、かろうじて前年並みとなった。その上、食材が値上がりしているため、利益は減少している。外国人観光客は、街でもよく見かけるが、当店にはあまり縁がない。景気向上が言われているが、道内の飲食店は、特定の店を除いて回復とは言いにくい状況にある。また、出入りしているタクシーの運転手も、景気が回復しているような光景は目にしていないようである。
高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・依然として低価格を要望する客が多く、少しでも単価を上げると客足が鈍る傾向にある。
タクシー運転手	販売量の動き	・今月は、ここ3か月と比べて若干上向き傾向ではあるが、全体の需要や販売量をみると、依然として前年よりも落ち込んでいる状況である。
タクシー運転手	販売量の動き	・3か月前と比較すると10%程度売上が伸びているものの、前年も10%程度の伸びがみられたため、前年実績とほぼ同じ売上であった。このことから、景気は変わらない。
タクシー運転手	来客数の動き	・売上は前年と同じくらいの実績であった。オーダー数は若干減少している。

	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・米国大手のスマートフォン端末発売にともなう好況を期待していたが、発売直後こそ客からの引き合いが多くあったが、すぐに落ち着き、元の状況に戻っている。	
	パチンコ店（役員）	お客様の様子	・建設業は消費税増税前の駆け込み需要で景気が良さそうだが、当業種においてはほとんど変わらない。	
	美容室（経営者）	お客様の様子	・例年どおり、夏の天候や社会的にあまり変化のない状況が続いており、客の生活パターンも固定化してきている。	
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・ここしばらくの間、良好な市場環境が続いており、客の購買意欲も比較的高い水準のまま推移している。しかしながら、来客数は増えておらず、市場の限界がうかがえる。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・鉄道の事故や台風による長雨などの影響が、要所要所で多少のマイナス要因になったとみられる。ただ、駅前周辺の飲食店での売上は前年並みであった。	
	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・夏の暑さが一段落して、冷え込みが厳しくなってきたため、これまで売上をけん引していたビール類にブレーキがかかっている。本来であれば、これから清酒等が売れてくるところだが、清酒各社から値上げの案内が続いていることもあり、消費者の財布のひもなかなか緩んでこない。さらに、ガソリン価格等が高騰しているため、新聞紙上の景気の良さとは裏腹に、買い控え、節約ムードが今月に入り色濃く出てきている。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・新規客がインターネット販売や大型店に流れるようになって久しいが、顧客の高齢化の影響が徐々に出てきており、台風等の天候要因が災いしている。	
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格の高騰にともない、客の節約志向が強くなっている。	
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・外国人団体客は堅調に推移しているが、国内団体客を中心に来客数及び客単価が伸び悩んでいる。さらに、食材コストとエネルギーコストが高騰しており、対応に苦慮している。	
	旅行代理店（従業員）	単価の動き	・高額商品が不振である。客の予算も低下している。	
	悪くなっている	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光最盛期が過ぎ、明らかに輸送量が減少している。
企業動向関連	良くなっている	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現政権の経済対策による効果を感じられる。
(北海道)	やや良くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税を控え、新築にともなうホームユース需要、請負物件ともに活発である。
		建設業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・消費税増税を意識した駆け込み契約等の影響により、建築資材や労務費が値上がりしており、建築工事費が高騰している。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・物流業では、輸入等の貿易に関連する商材よりも、国内建築関連の話題性が目立ってきている。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・販売量、問い合わせ件数ともに増加傾向が明らかとなってきた。
		金融業（企画担当）	それ以外	・公共工事の増加で建設関連が好調である。住宅着工などの駆け込み需要が顕在化し、国内外からの観光客も増加している。ただし、原材料価格の上昇などが企業収益を圧迫しているほか、建設業界では人手不足から工期の遅れや工事の受注回避がみられる。
		コピーサービス業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年と比較して受注量が伸びてきている。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・規模は小さいものの、新規案件がはじめてきた。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・公共事業の増加にともない、顧客の仕事量が増えたせいか消耗品以外の設備、工具関連の販売量が増えた。

	変わらない	食料品製造業 (役員)	受注量や販売量 の動き	・受注量が減少し、売上が前年を下回っている。
		輸送業(営業担 当)	取引先の様子	・4～8月の生乳の道外移出量はほぼ前年並みであつたものの、9月の生産量が落ち込んでいることから、道内消費分の一部を道外に振り分ける動きがみられる。
		司法書士	取引先の様子	・一般社会で言われているような景気の回復が思った以上に遅い。一部では回復傾向もみられるが、全体的には以前と変わっていない。
		司法書士	取引先の様子	・現政権の経済対策の効果が中小企業にはなかなか及んでこない。所得の増加や収入の安定化などの実感もなく、不動産購入などの大型消費にはなかなか目が向かない。
	やや悪くなっている	司法書士	取引先の様子	・消費税増税決定前の不動産売買や建物新築の駆け込み契約の増加を期待したが、今後の諸物価の値上がりを懸念してか、契約増加につながらなかった。
	悪くなっている	-	-	-
雇用 関連  (北海道)	良くなっている	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・飲食店への客入りがかなり良い状態で、求人募集が今なお増え続けており、人材募集が追い付いていない状況にある。地元客に加えて、外国人観光客やLCCの影響で国内観光客が増えているのが要因とみられる。これにともない、ホテル業界も高い稼働率を維持している。外国人観光客は、台湾、タイ、香港、豪州などが特に多い。また、貨物運送も通信販売の配送が増えていることで活況を呈している。また、街中のテナントも新店舗や姉妹店の増加で、ほとんど空きがなくなっている。
	やや良くなっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・当社の人材紹介事業部門への求人依頼が急激に増加している。求人職種をみると、建設業はもちろんであるが、営業や事務職のニーズも増加しており、企業の景況が踊り場から上ぶれしてきている。派遣のニーズも同様に増加基調である。労働者も企業の採用活動が活発になったためか、登録者が微減となっている。
		人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・有効求人倍率が上昇している。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・今年の特徴である建設系の求人や医療介護系の求人については、高いニーズが持続している。業種を問わず、ほぼ全業種にて求人意欲が高く、飲食や小売では秋の新規出店も多くみられる。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人数は前年から12.4%増加し、43か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から21.3%増加し、43か月連続で前年を上回った。
	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・求人数については、前年度に新規オープンや増員などの大量求人があった反動で若干の減少傾向がみられるが、求人件数は着実な伸びを見せている。	
変わらない	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・求人数は前年よりも多いものの、内訳として派遣社員の求人が増加している。	
	新聞社[求人広 告](担当者)	求人数の動き	・募集広告売上が前年比118.5%と伸びている。小売流通、医療、運輸運送、飲食、土建不動産の上位2～6位の業種が特に好調であり、いずれも前年比150%を超えている。募集広告が大きく落ち込んでいた2009年と比較すると、これらの業種すべてで倍増となっている。全体の合計額も当時と比べて50%を上回る増加となっている。	
	職業安定所(職 員)	雇用形態の様子	・8月の新規求人数は前年を5.3%上回った一方で、新規求職者数は前年を9.0%下回った。月間有効求人倍率は0.81倍となり、前年の0.68倍を0.13ポイント上回った。しかし、新規求人のうち正社員求人の占める割合は44.1%と求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。	
やや悪くなっている	職業安定所(職 員)	採用者数の動き	・求人数の増加傾向が継続しているが、逆に就職者数は6月以降減少している。	
	悪くなっている	-	-	-